



【落款】

上 小憲信印

(布岳の名は小栗憲一

略して小憲と彫る)

下 香頂之弟

(布岳は戸次妙正寺の

小栗栖香頂の弟)

資料紹介

狩生・車の民家に伝わる書画

狩生 野々下 静

【口訳】

仏が世の中に現れるわけは、ただ阿弥陀如来の本願(衆生を救う願い)を説くためである。世の中が悪で濁った時は、すべて人はひたすらに仏の尊い教えを信ずるべきである。

【語註】

○如来 ニヨライ 仏の尊称

○阿弥陀如来 アミダニヨライ 西方浄土の仏。浄土

宗・真宗の本尊

○所以 ユエン そうなるわけ・理由

○本願 ホンガン 誓願・衆生済度の祈り

○毎水 ウミ 海の異体字。二回出るので別の文字を書

いている

一、善教寺小栗布岳の筆跡

【本文】

如来所以興出世

唯説弥陀本願海

五濁惡時群生海

應信如来如実言

【書き下し文】

如来の興^{よらい}りて世にい^{おこ}ずる所以^{ゆえん}は

唯^{ただ}、弥陀の本願の海を説くのみ。

五濁^{ごじよく}惡の時、群生の海は

應^{まこと}に如来如実^{にじつ}の言を信ずべし。

六十七翁布岳

○五濁悪　ゴジョクアク　阿弥陀經にある言葉・五つの悪で濁った世、人の世をさしている

○群生　グンジョウ　すべての生き物・一切衆生

○應　マサニ…ベシ　※再読文字で漢文では二度読む当然…するはずである。きつと…にちがいない。

○如実　ニヨジツ　真実・本体

平成十九年三月二十三日　解説　木許　博（案）

二、彦根藩御用絵師・佐竹永海の画幅

西上浦車の民家に南画風の山水図があり、法眼永海の署名と落款が押してある。ネットで検索したところ「彦根藩御用絵師・佐竹永海」という人物が検出された。

◎佐竹永海（えいかい）は江戸後期から明治初期にか



けて（一八〇三～七四）活躍した絵師である。

◎奥羽会津の出身で、当時関東画壇を席巻していた谷文晁（ぶんちょう）に学んだ。師の画風を反映して南宋画と北宋画を折衷した山水図を得意とする。

◎天保九年（一八三八）三十六歳の時に彦根藩主井伊直亮（なおあき）に召し抱えられ、法橋（ほつきょう）う）・法眼（ほうげん）の位に叙せられた。

◎彦根の下屋敷（けやき 槻御殿）の障壁画や多賀社の奉納絵馬を手がけている。

佐竹永海の商品や人物については、「彦根城博物館だより」に紹介され、出身地の福島県立博物館では「学術調査報告書20佐竹永海」が発行されている。

